

経営比較分析表（平成30年度決算）

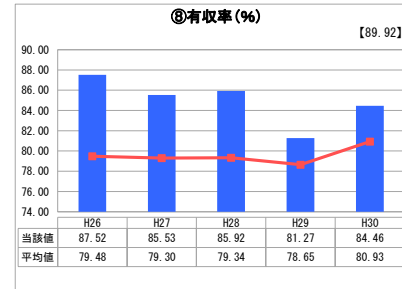
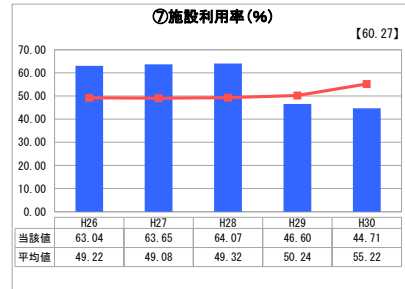
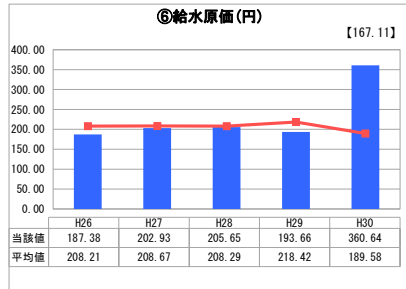
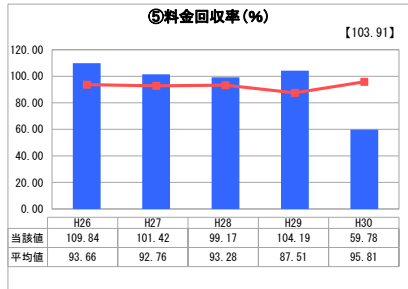
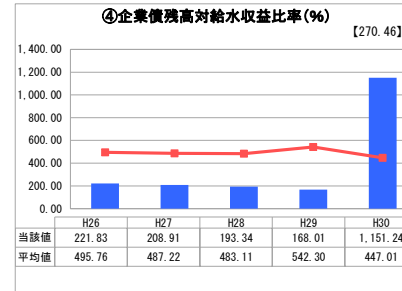
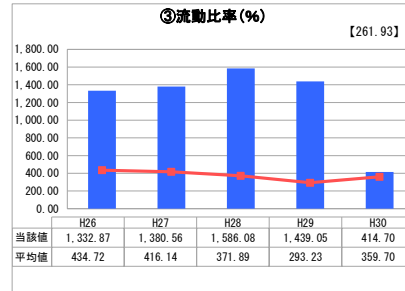
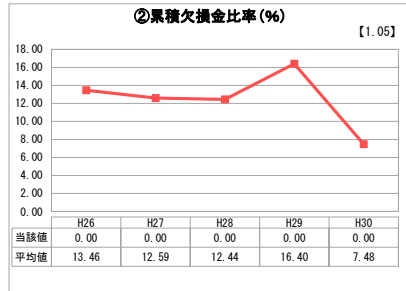
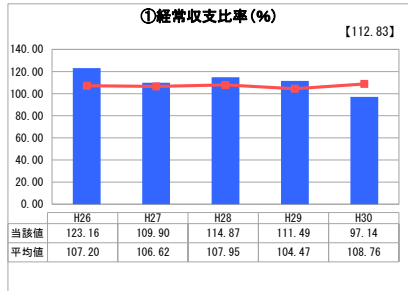
岡山県 鏡野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.03	95.54	4,100	

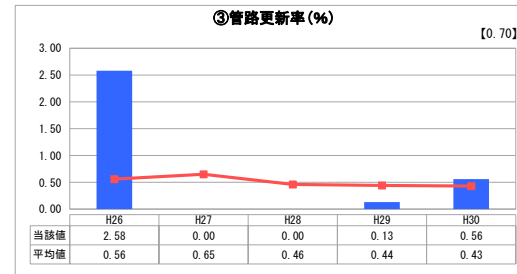
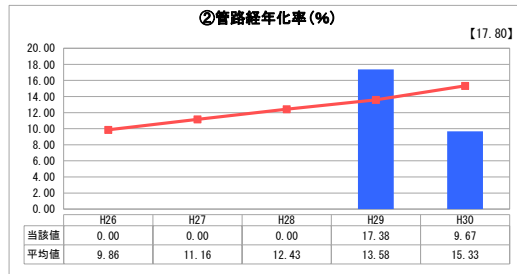
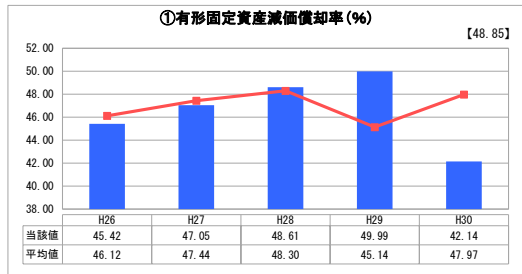
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,024	419.68	31.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,369	56.03	220.76

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
平成30年度に簡易水道事業を統合したため、100%未満となり、赤字経営に転落した。
- ② 流動比率
簡易水道事業統合により流動負債が増加したため、比率が大きく下がった。
- ③ 企業債残高対給水収益比率
簡易水道事業統合により企業債残高が大幅に増加したため、比率が大きく増加した。
- ④ 料金回収率
簡易水道事業統合により100%を大幅に下回った。給水に係る費用が給水収益で賄えていないことを表している。
- ⑤ 給水原価
簡易水道事業統合により数値が大幅に上昇し類似団体平均を大きく上回った。
- ⑥ 施設利用率
近年類似団体平均を下回っており、施設規模が適切ではないと判断できる。
- ⑦ 有収率
近年は配水管の漏水も少なく、類似団体の平均以上の有収率を保持している。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
簡易水道事業統合により償却率は大きく減少した。旧簡易水道分の有形固定資産が比較的新しいことを示している。
- ② 管路経年化率
簡易水道事業統合により比率が大幅に減少した。
- ③ 管路更新率
平成29年度からの管路更新事業の計画に基づき当年度も老朽配水管の更新を実施した。

全体総括

平成30年度に簡易水道事業を統合したため、赤字経営に転落した。令和元年度以降も老朽管路の更新を順次行っていく計画で、数年後には配水池等の大規模な施設更新も予定されている。このため、大きな増収の見込みがない状況下では、収支の効率化をより一層図りながら不要な資産の除却もあわせて進めていくことが今後の課題である。